

植物発生材を利用した燃料化 ～「鮎沢ペレットプラント設備」の試行運用状況～

中日本高速道路株式会社は、環境・持続可能社会への貢献と資源の3R推進を目的に、高速道路の維持管理で発生する植物発生材（刈草や剪定枝、伐採木など）をペレットプラント設備により燃料化する、環境に配慮した取組みを実施しています。

今年6月に高速道路会社で初めて、高速道路の維持管理で発生する植物発生材をペレット化する燃料製造施設「鮎沢ペレットプラント」を神奈川県足柄上郡山北町の旧パーキングエリア敷地に整備し、8月から同施設の試行運用を開始しました。

現在の試行運用状況は、鮎沢ペレットプラントに草200m³と木30m³の植物発生材を搬入し、約15tのペレットを製造しました。また、この製造した約15tのペレットで高速道路の料金所施設（新東名・藤枝岡部料金所）の空調設備を約3週間稼働することができ、電気使用量の節電が可能となります。

今後は、当社初のバイオマス循環利用モデルとして、試行運用を1年程度継続し、ペレットの製造量や品質、ボイラーの燃焼効率等の検証を行い、本運用に向けた検討を進めています。

■主な取組み内容

①試行運用状況



植物発生材の分別



乾燥



ペレットの製造



ペレット完成

②所在地 神奈川県足柄上郡山北町



③ プラント諸元

- 最大処理能力 約 18,000 m³/年 (剪定枝・伐採木・刈り草)
 - 最大生産能力 約 500 t /年



プラント全景

④試験運用・本運用スケジュール